

## 研究会活動報告

人文科学研究所では、二〇〇六年度より学内の様々な分野の教員の専門的知識を活用し、また教員間の交流を活性化することを目的に、共同研究を発足した。その最初のプロジェクトとして、明治の精神研究会と題された共同研究を行っている。

明治の精神研究会は、人文科学に関係する様々な分野から多面的に明治という時代や近代化を把握することを目的としている。同研究会は学内の教員を主要なメンバーとしているが、学外からも講師を招聘し、また学内外を問わず参加者を募り、開かれた共同研究として開催されている。その成果は、共同研究終了後にあらためて公刊する予定であるが、ここに第一回から第三回までの研究会の概要を報告する。各回の概要は以下の通りである。

### 第一回

報告者…鳥井正晴（相愛大学人文学部日本文化学科教授）

テーマ…「明治の精神」——その典拠と漱石・鷗外、芥川の意識——

日時…二〇〇六年七月三〇日（日） 午後三時三〇分～午後五時

場所…相愛大学大学棟U二四〇

参加者…一三名

鳥井正晴氏による報告は、研究会のタイトルの典拠である夏目漱石『「こころ」の一節を起点に、夏目漱石が「明治の精神」と呼ぶものを再検討し、漱石における「明治」という時代観や国家観に迫るという

趣旨であった。その際、注目されたのが、漱石と同世代の作家と目される森鷗外との認識の共有であり、芥川龍之介や志賀直哉、武者小路実篤ら次世代の作家との認識のずれである。報告はその異同に焦点を合わせ、それが何に由来するのかを問い、幕末に生まれた漱石・鷗外の素養や明治憲法制定に関する認識、官費での留学体験など、いくつかの仮説が提起された。

報告後には質疑応答が行われ、漱石における「明治の精神」と江戸時代の知との連続性の有無、「明治の精神」の思想的な内実、さらに一九六〇年代後半に「明治の精神」という言葉が取り上げられた意味など、多岐にわたる論点が提出された。

### 第二回

報告者…呉谷充利（相愛大学人文学部現代社会学科教授）

テーマ…住友吉左衛門友純と府立図書館——芸術としての明治——

日時…二〇〇六年一〇月二五日（水） 午後二時～午後五時

場所…相愛大学大学棟U二四〇

参加者…八名

呉谷充利氏による報告は、大阪府立図書館創設時の住友吉左衛門友純による寄付行為を手がかりに、近世から近代への精神性の継承を探るという趣旨であった。とりわけ、住友吉左衛門友純の寄付行為と住友家の家憲との関連性や、住友家と懷徳堂との関わり、府立図書館の建築・装飾などに見られる特徴などを踏まえ、府立図書館の創設において、山片蟠桃に代表される近世大坂の合理主義が不可欠な要素であったとする問題提起は、単に文化の歴史的連続性を強調するのみなら

ず、国体論のような復古主義とも西洋化を掲げる欧化主義とも異なる、近世的合理主義に基づく近代化思想の系譜の存在を示唆するものであった。

報告後には質疑応答が行われ、府立図書館の装飾の意味・意図、またその建築や装飾への住友吉左衛門友純の関与の程度、江戸と明治あるいは大阪（共同体）と近代国家（市民社会）、文化と文明などを対置する図式の妥当性などについて討議され、明治を江戸との連続性によって捉えるという視点の射程をめぐる認識の深化が図られた。

### 第三回

報告者…藤原正信（龍谷大学文学部史学科国史学専攻助教授）

テーマ…日本近代の権威と権力——ミカドの政府の精神的基盤——

日時…二〇〇六年一月二六日（土） 午後二時～午後六時

場所…相愛大学大学棟U二四〇

参加者…七名

藤原正信氏による報告は、明治期のいわゆる国家神道確立の問題に焦点をあわせ、その確立時期と信仰としての様態を浮き彫りにするという趣旨であった。従来、確立時期をめぐって諸説ある国家神道だが、報告はこの点につき、民衆への教化政策や、仏教・キリスト教など諸宗教との関係を分節化した政策、それらへの島地黙雷ら真宗系知識人や福沢諭吉ら啓蒙知識人などの反応、さらには民衆の反応に注目する限り、一八七〇年代半ば（明治八年前後）から遅くとも一八八〇年代初頭（明治一五年前後）には国家神道が確立されたと、従来の通説よりも早い時期での確立を主張する。また、信仰としての様態につ

いては、国家神道が神道非宗教論に立脚していたこと、そしてそれを受容した人々のそれぞれの信仰と矛盾をきたさなかったことから、真俗二諦のような信仰の二元的（霊的／世俗的）秩序が形成されたとする仮説が提起された。

報告後には質疑応答が行われ、国家神道の確立と讒謗律・新聞紙条例など強権的政策との関連性、国家神道を可能にしたのは強権的な言論統制か人々の自発的な服従かという問題、国家神道への真宗の対応、国家神道と信教の自由との関わりなどについて討議され、明治期において精神的秩序が置かれていた状況をめぐる問題が確認された。

（嘉戸一将）

## 相愛大学人文科学研究所規程

### (総則)

第一条 相愛大学学則第五二条に基づき、本学に付属研究・教育機関として相愛大学人文科学研究所（以下、「研究所」という）を置く。

### (目的)

第二条 研究所は人文科学及びその隣接領域の研究並びに普及をはかることを目的とする。

### (事業)

第三条 研究所は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 一 各専門分野における学術の研究
- 二 研究会、講演会の開催
- 三 共同研究調査
- 四 委託研究調査
- 五 紀要、その他必要な出版事業
- 六 その他、研究所の目的達成に必要な事業

### (部門)

第四条 研究所は、事業の遂行に必要なときには、専門別の研究部門を設けることができる。

### (組織)

第五条 研究所は所長の他、下記の所員を置くことができる。

- 一 研究員 若干名
- 二 研究所助手 一名
- 三 事務職員 一名

### (所長)

第六条 所長は研究所を代表し、これを統括する。

二 所長は教授会の議を経て学長が任命する。

三 所長の任期は二年とし、再任を妨げない。

### (研究員)

第七条 研究員は本学の専任教員の兼任者によって構成される。また必要に応じてその他の研究員を置くことができる。

### (運営委員会)

第八条 研究所に運営委員会を置く。

二 運営委員会は、所長、研究員及び人文学部主任会構成員をもって組織する。

三 運営委員会は、研究所の運営維持等について審議する。

### (改廃)

第九条 本規程の改廃は運営委員会の発議に基づき、教授会の議を経て、学長が行う。

附則 この規程は平成一六年四月一日から施行する。

附則 本改正規程は平成一七年四月一日から施行する。

附則 本改正規程は平成一八年四月一日から施行する。

## 〔彙報〕

・平成一八（二〇〇六）年度公開講座

テーマ「都市」

場所・教室（時間） 南港学舎・R四〇一（午後二時～四時）

日程・題目・講師

①九月三〇日（土）

ニュータウンのまちづくり —住民の活動と持続可能性—

NPO政策研究所理事長 直田春夫

②一〇月七日（土）

中之島から大阪が見える —生としての都市—

本学教授 呉谷充利

③一二月四日（土）

江戸時代の大阪

本学教授 千葉真也

④一二月一日（土）

アメリカ黒人文学の中の都市

本学副学長 山下昇

⑤一二月八日（土）

都と文学 —長安・飛鳥を中心に—

本学教授 孫久富

・相愛大学人文科学研究所 学外公開講座 二〇〇六年一〇月一日

北御堂（本願寺津村別院）にて

## 〔講演〕

「奈良朝貴族の仏道修行」

本学教授 山本幸男

六世紀前半に公伝して以来、仏教は祖霊信仰と結びつき豪族・貴族層に受容されてきました。また中国では、皇帝が仏教を崇敬し、インドからもたらされた仏典の翻訳を奨励したため、日本の為政者には仏教は先進的な文化と認識

され、遣隋使や遣唐使を介して最新の仏教研究の成果が積極的に導入されました。こうして、律令国家が成立した奈良時代になると、国分寺や東大寺の大仏に代表される日本的な仏教文化が花開くのですが、といって個の救済さらには一切の衆生の救済という仏教本来の目的が理解され実践されていたわけではありません。というのは、奈良時代の仏教は「国家のための仏教」と位置づけられていたからです。しかし、そうした時代にあつて、仏教本来の目的を真摯に追究しようとした人々（貴族）もいました。今回の講座では、これまで余り取り上げられることのなかった奈良朝貴族の仏道修行のあり方を考察し、当時の仏教が秘めていた可能性について考えたいと思います。

## 〔演奏〕

チェロ 本学音楽学部教授 斉藤建寛

ピアノ 音楽学部卒業生 細見理恵

・E・エルガー 愛のあいさつ

・S・ラフマニノフ プレリユード 東洋風舞曲 ヴォカリーズ

・R・シューマン アダージョとアレグロ

## 編集後記

人文科学研究所設置からやがて三年の歳月が過ぎようとしている。研究所の活動は年々充実を見せ、今回、待望の「研究年報」創刊号を発行、皆様にお届けできる運びとなった。研究員として一新新しく仲間入りし、公開講座（「都市」をテーマにしたシリーズ、また「奈良朝貴族の仏道修行」と「明治の精神」研究会の内容からは一番遠くにいるのではないかと思う私が編集を担当することになり、少しばかりの困惑もあったが、他の研究員の方々と共に何とかここまで漕ぎ着けたという感である。本号が今年度の研究所活動の報告となると共に、今後の活動の更なる発展に寄与するものであることを願って止まな

い。  
(木下 有子)